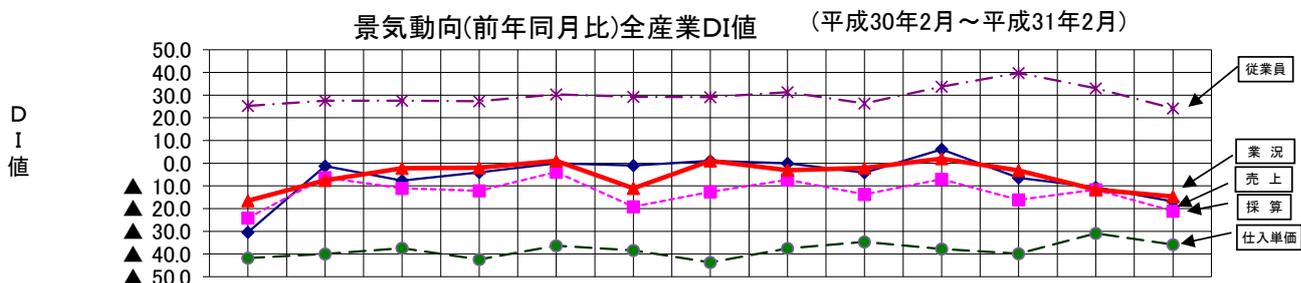


早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 2月分

【2月の概要】 景況感は下降傾向、先行きは改善の見通し

1月に比べると、売上、採算、業況、仕入単価D Iのマイナス幅が増加した。従業員D Iのプラス幅は減少している。暖冬で小雪により飲食業などでは前年同時期より売上は好調との声も聞かれるが、2月は売上や取引の動きが弱い業種・企業も多く、原材料費など仕入コスト増の影響もあって、景況感は全体的に下降している。

先行きについては、1月に比べ、売上D Iはプラス幅が増加しており、仕入単価D Iのマイナス幅は増加しているが、採算D Iはマイナスからプラスに転じた。業況D Iもやや改善している。従業員D Iのプラス幅は増加した。人手不足と仕入コスト増が続くものの、春先の需要増も見込まれ、景況感は改善の見通し。



	平成30年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	平成31年 2月
◆ 売上	▲ 30.4	▲ 1.3	▲ 7.7	▲ 4.0	0.0	▲ 1.0	1.0	0.0	▲ 4.2	6.1	▲ 6.5	▲ 10.6	▲ 16.8
■ 採算	▲ 24.1	▲ 6.3	▲ 11.0	▲ 12.1	▲ 3.9	▲ 19.2	▲ 12.6	▲ 7.3	▲ 13.7	▲ 7.1	▲ 16.1	▲ 11.7	▲ 21.1
▲ 業況	▲ 16.5	▲ 7.5	▲ 2.2	▲ 2.0	1.0	▲ 11.1	1.0	▲ 3.1	▲ 2.1	2.0	▲ 3.2	▲ 11.7	▲ 14.7
● 仕入単価	▲ 41.8	▲ 40.0	▲ 37.4	▲ 42.4	▲ 36.3	▲ 38.4	▲ 43.7	▲ 37.5	▲ 34.7	▲ 37.8	▲ 39.8	▲ 30.9	▲ 35.8
* 従業員	25.3	27.5	27.5	27.3	30.4	29.3	29.1	31.3	26.3	33.7	39.8	33.0	24.2

【全産業平均DI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合)

売上D Iは6.2ポイント、採算D Iは9.4ポイント、業況D Iは3.0ポイント、仕入単価D Iは4.9ポイントそれぞれマイナス幅が増加した。従業員D Iは8.8ポイントプラス幅が減少した。

全産業平均D I - 向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	仕入単価	従業員	業況
1月	4.3	▲ 11.7	▲ 29.8	28.7	0.0
2月	15.8	1.1	▲ 36.8	31.6	1.1

先行きは、売上D Iは11.5ポイントプラス幅が増加し、採算D Iはマイナスからプラス1.1ポイントに転じた。業況D Iは0.0からプラス1.1ポイントとなった。仕入単価D Iは7.0ポイントマイナス幅が増加した。従業員D Iは2.9ポイントプラス幅が増加した。

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	設備工事	受注は低調。原油高により資材は高騰し、人件費も高騰している。
	総合建設	昨年は除雪関係で売上がアップしたが、今年は土木工事では通常の進捗状況である。
製造業	食品	緩やかに売上は増加しているが、仕入単価も増加している。
	機械部品	一時的なものなのか継続するかは不明であるが、受注が減少傾向にある。
卸売業	材木	不需求期、流通低迷で稼働日も少なく、2月は年のうち一番低調になるのが通例である。
	機械部品	春先は得意先の設備投資等で売上増となる見込みであるが、仕入価格の値上がりが止まらない。
小売業	家具・日用雑貨	売上は前年同月の比較では漸減だが、今後3ヶ月の売上は、変動はないと考えている。
サービス業	広告	1月、2月は休日も多く全体的に動きが悪いため、売上は毎年極端に減少する。
	飲食	昨年2月は大雪で今年は積雪なし。その違いで売上は良く、昨年より採算は好転しているが、そもそも2月は採算の良い月でない。
	ホテル	県内の冬季はお客様の動きが鈍く、売上に影響している。婚礼宴会の受注が伸び悩んでいる。